

「マーケットの浅読み・深読み」

発行・編集：FXニュースレター

執筆担当：斎藤登美夫

◆◆◆ No.0814 ◆◆◆

24/11/06

【ドル/円は過去4ヶ月の月間平均変動「10円」、今月も大相場!?】

すでに終了している10月のドル/円相場は、月間変動幅が10.92円となった。7月の12.35円に次ぐ、今年2番目の月間大変動になる。

年間変動率が38円を超えるなど、歴史的な大相場をたどった2022年を中心に、しばらくのあいだ「月間変動幅の平均がおよそ8円」というかなり激しい上下動を記録していたが、いつしかそれも終了。しかし、今年7月以降の直近4カ月はと言うと「12.35円」、「9.20円」、「7.62円」そして10月が前述した「10.92円」であり、その平均は「10.02円」だ。かつての大相場が戻っている感も否めず、足もと11月そして今年最終月の12月の大相場も期待せずにはいられない。

◎経験則では「ドル高有利」も、直近4年は逆に「ドル安」進行

以下では当レターの恒例となっている過去の経験則からみた月間見通しをレポートするが、前段階としてまずは1990年以降昨年まで過去34年間の戦績を見ておくと、20勝14敗となっていた。率換算で6割を若干欠くものの、「わずかにドル高有利」であると言えそうだ。

しかし、やや興味深いのは2020年以降、つまり直近4年間だけを見ると、すべて逆方向の「ドル安・円高」へと振れている。為替市場関係者のあいだで、よく取り沙汰される話として、「年末にかけてドル高進行しやすい」というモノがあり、実際に12月は確かにそういった傾向もうかがえるが、ここ数年の11月はむしろ逆方向に動くリスクが高いのかもしれない。ヒョッとしたら、どこかで需給要因などが変化、潮の目が変わった可能性もある。頭の片隅にでも、是非とどめておいていただきたい。

また、そんな11月のドル/円相場には、もうひとつ「月間の変動幅そのものが比較的大きい」という特徴がうかがえる。典型例は直近でいうなら、11.32円の変動を記録した一昨年の2022年や、2016年のケースがありそうだ。後者2016年の場合も、月間変動幅はなんと13.36円。ぶっちぎりの年間1位となる大変動だった。

動くときには、かなり大きく変動することも決して少なくないだけに「今年も」と、2カ月連続の大変動を思わず期待してしまうのは筆者だけだろうか。

一方、過去の11月をニュースの観点から調べてみると、世界的に見て政治的な大事件が少なくないが、今回の当レターでは省かせていただく。

ただ、話を為替あるいは金融に絞っても「ポンドショック(1959年)」、「日本政府が円急騰対策を発表(1977年)」、「カーター米大統領がドル防衛策発表(1978年)」、「ドル/円が278.50円の戻り高値を示現(1982年)」、「アジア通貨危機の余波を受け韓国が通貨切り下げ(1997年)」、「ECBなどがユーロ買い介入に動意(2000年)」など枚挙に暇がないだろう。

さらに、そこまで「歴史的な出来事」ではなかったが、昨2023年の11月はと言うと、ドル/円が一時151.92円の高値を示現。「さらなる高値追い」が期待されるなか、翌12月の安値140.26円に向けてドルは一転して10円を超える下落をたどるキッカケとなったことが記憶に新しい。

周知のように、ドルは前述した140.26円で底打ちし、今年7月の161.96円に向けて再びドル高が進行することになるのだが、折しも足もとのドル/円相場も152-154円で推移し、当局者からは円安けん制発言が再び聞かれ始めている。思わぬ格好で、ドルは昨年引き続き急下降へと向かうトリガーを引くような展開もないとは限らないのかもしれない。(了)

当レターは、情報提供のみを目的としたものです。内容に関して正確であるよう注意を払っておりますが、その正確性を保証することはできません。投資や運用にあたっての最終的な判断は、あくまで読者自身の責任と判断によって、ご利用いただくようお願い申し上げます。また、本稿の無断転載・転送もご遠慮ください。

なお、本稿に関する問い合わせは『FXニュースレター』までお願い致します。

